

保存会だより

発行
徳高人形・
御船祭保存会

天候に恵まれ人形展示

当会の第十一回
徳高文化協会徳高
文化祭展示が昨年
に続き北神苑にて
十月二十六日、
十一月八日の期間
展示された。

本年は春からの
新型コロナウイルス
の影響により徳
高神社の子供祭・
例祭御船祭も御船
の曳行は実施され
なかったため、会
としては人形展示
を行うかどうか検
討を行っていたが、
文化協会から「神
社境内で安曇野秋
香会が菊花展を行
うので、屋外であ



り密にならないので保存会でも展示を行ってみたい。」との話もあり例年通り実施する事とした。
展示初日の開会セレモニーでは徳高文化協会佐伯治海会
長のご臨席を頂き行われた。

小林千尋会長は「新型コロナウイルス一色で大変な年であつた。三密を避けるために御船祭も中止となり残念であつた。後継者育成には一年間展示が空くと大変であり、気持ちに穴が空いてしまうので今回教室の皆様のご協力にて展示する事が出来て良かった。」と挨拶した。

佐伯会長は「内容も良く、人形展示が無いと徳高文化祭が薄れる。六十五回を数える文化祭の室内行事は新型コロナウイルスにより中止してしまつたのは残念である。しかし人形飾り物を行ってもらえる事に感謝したい。文化協会の他のサークルは後継者がいない会が多い。この保存会の皆様は若い人まで入っていて非常に良い事だと思う。長野の御開帳、諏訪の御柱、遷宮の徳高人形飾り物は県を代表する一大行事なっている。今後頑張ってもらいたい。」と言葉を頂いた。
各場面説明では牛流教室「五條大橋 牛若丸と弁慶の出会い」は竹内敏夫さんより「実は例祭の御船祭に飾るつもりで考えていた場面です。場面の中心となる橋を作るのに四日間程掛りましたので、その出来も見てもらいたい。」と言われた。

保尊教室「花咲じじい」は山田孝さんより「年初考えていたものが有つたが、コロナ禍の中でこの場面に変更し賑やかで誰にも分かる話にしました。本年はゆつくりと花見も出来なかつたので、来年は良い花見が出来ればと願いを込めて飾つた。木に花を咲かせるところが大変であつた。」と言われた。

小平教室「本能寺の変」は嶋田豊實さんより「大河ドラマ

にちなんで制作した。これを見て光秀の気持ちを感じてもらいたい。教室として残念なのは一緒に人形を作った仲間二人が本年亡くなったことが寂しいです。」と言われた。

今回の展示は準備の日に雨が降り大変であったが無事飾り付けが行われた。例年であると神社境内では「新そばと食の感謝祭」が行われるが新型コロナウイルス感染防止により中止となったが、菊花展を見に来た人が足を止め見ていたり、七五三詣りの子供が飾り物の前で写真を撮っている姿があった。



▲保尊教室「花咲じい」



▲小平教室「本能寺の変」



▲牛流教室「五條大橋 牛若丸と弁慶の出会い」

穂高南小と穂高駅で迎える穂高人形

南小学校の生徒に伝統文化を伝える人形飾り物場面は一年間事務棟改修工事により展示を止めていたが、本年三月二十六日新年度を迎える前に展示を再開し、「因幡の白兔」が飾られた。この場面は前年の文化祭に飾られた物を小学校の展示スペースに合せ手直しして飾られた。この飾り物は子供たちに嘘をついてはいけない、正直に生きて行くことの大切さを伝えて

いる。
穂高駅では三月三十日小平教室により駅改札前に展示される人形が飾り替えられた。

本年は「内助の功を支えた千代」と題された山内一豊と千代が飾られた。この頃より新型コロナウイルスにて県外からの旅行者が減少していたが、夏からは訪れる駅を利用する人を楽しんでもらっている。



御船曳き出されな 穂高神社例祭御船祭

春先より拡大している新型コロナウイルス感染症による例

祭御船曳き出し奉納行事実施の是非を問う相談が穂高神社へ寄せられていたが、お囃子や曳行には区民参加による三密は避けられないことから本年の御船の曳行・境内での御布令の取り止めを決定した。それに従い各区でも御船作りもなく非常に寂しい例祭となった。例祭当日は区長代表参列により祭典のみ斎行された。

御船に関する古い文献は元禄二年（一六八九）に御船が出されていた記録があり、終戦後の混乱し大変な時にも続けられてきた例祭御船祭であるが、本年は残念ながら御船が出ない歴史に残る年となってしまった。

新しい後継者

昨年より小平教室に入り研修を積んでいる小川雅代さんより教室に関わる様になった理由を聞いた。

「穂高人形・御船祭保存会小平教室（一真会）に参加して一年数か月。まだまだ活動の内容を把握していないが、「穂高人形」「御船祭」というものを、大切に継承していかなければならないものであることを、改めて実感する。人形の骨組み一つひとつ、人形それぞれの顔の表情、場面に合せた着物や背景。想像力と丁寧な作業で作られていく飾り物は、とても美しく誇らしく思う。」

このような地元の大切な文化を継承していくには、幼い頃からお船祭りを見たり参加し、御船を曳きながら飾り物を目にし、お囃子の音色を耳にし、年齢に応じた関わりを重ねていきながら、そこで感じ得た思いを育てていけたらと思う。私自身、子供のころには船を曳き、実現できなかったが、お囃子や巫女の舞にあこがれた時期があり、そして時を経て、

自分の子供たちがお囃子のメンバーとして活動し、自分も学校や地区の役員として御船祭に関わり、そんな流れの先に、今こうして保存会で活動させていた。息子も健壯団で先輩方にご指導いただきながら御船祭や他の行事に関わらせていた。だいたい。

親の世代から子供たちへ、そしてまた次の世代へ、語り合いながら一緒に体験していくことが文化継承に大事な事であると思う。ぜひ多くの方々に関心を持っていただき、この美しい「穂高人形」「御船祭」を永い未来の先まで繋いでいけたらと思う。」と力強い言葉を聞いた。

各教室では新たな後継者を募集しております。どうぞ週末に行われております教室の研修風景をご覧ください。

「安曇野のお船祭り」調査報告書完成する

平成二十九年三月三日付けにて文化庁より記録作成等の措置を講ずるべき無形の民俗文化財に選択された「安曇野のお船祭り」の調査が平成二十九年度から令和元年の三カ年に渡り行われ、その調査報告書（二二〇頁）が完成して本年四月当会及び各区・奉納団体に届けられた。

今回の調査報告書は安曇野のお船祭りの中心となる穂高神社の例祭御船祭に関して多くのページが割かれており、調査期間中は神社、各区、奉納団体に調査委員が足繁く訪れ準備飾り付けや祭典を詳しく調査しており、御船や人形を作る人



達など祭典関係者が快く協力していた。
この報告書は文化庁に提出され、今後御船祭が国指定無形民俗文化財に昇格する一歩となる事を願いたい。

若年層人形講座

本年一月十三日穂高区田中公民館で小学生二十八人の参加により穂高人形講座が行った。

当日は保尊教室の指導により刀の制作が行われた。予め教室にて木材を刃、鍔、鞘の形に作り、子供達が刃は銀色に塗装して、柄には紐を巻き鍔や鞘に各自がデザインした色塗りを行って完成させた。

参加の子供からは「出来上がった見たら色々な模様が有って楽しかった。」と話し、制作に真剣に取り組み完成した刀が持ち帰れると好評を得た。

尚、その他の地区は新型コロナウイルス感染症防止により残念ながら本年の講座は実施されなかった。



着物御寄進御礼

この一年間に人形や御船の飾り物に必要な着物類の寄付

をお寄せいただき心より御礼申し上げます。
着物計三〇〇枚 小物・茶箱・衣装タンス等を計一四四点
頂き誠に有難うございます。今後有効に使用させて頂きます。
寄付者名は左記の通り。(順不同)

松本市	吉村恵美子	松本市	丸山貞子
松本市	輪湖信久	調布市	吉田美穂
春日井市	柴山主税・智恵子	大町市	降旗至孝
池田町	太田三枝子	辰野町	穂高佳子
安曇野市	野田園	安曇野市	古田京子
安曇野市	高橋浄	安曇野市	遠藤千明
安曇野市	勝野いすゞ	安曇野市	古田吉昌
安曇野市	成川朝子	安曇野市	小平方水
匿名一名			

本年は着物を例年より多く寄付を頂きました。その中に、
県外の方より当会への激励のお言葉と共に頂きましたので紹介させていただけます。「昨年初めて御祭りを拝見させて頂きました。実に勇壮な御祭りで地元の年配の方からお若い方や子供さんまで一致団結して、準備から本番にいたるまで我々観光客までも一体に楽しませていただきました。」

今ではこのような御祭りは本当に貴重でいつまでもずっと永遠に続いてほしいものとして願っております。後略

着物・萱類等についての寄付は引き続き事務局穂高神社社務所にて受け付けておりますので、今後もしも協力をお願い致します。

